

# 医心伝心 1 January

保健 医療 福祉 分野で社会に貢献します。

一特集一

安心を守るための  
取り組み

予測できない災害に備えて

## ■ かかりつけ医を持ちましょう

当院は、地域医療連携を推進しています。当院を受診される場合は、かかりつけ医からの紹介と予約が必要です。ご理解とご協力をお願いいたします。

## ■ 紹介状持参のお願い

当院は紹介受診重点医療機関です。初診の方は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）を必ずお持ちください。紹介状なしで受診された場合、初診時選定療養費（自費）7,700円（税込）がかかり、待ち時間が長くなりますのであらかじめご了承ください。

## ■ 救急外来について

当院の救急外来は、重症度の高い患者さんを優先に診療いたします。円滑な救急医療を行うため、なるべくかかりつけ医か休日診療所、在宅当番医を受診してください。必要に応じて当院にご紹介いただくシステムになっています。

## ■ 予約変更専用窓口について

予約の変更・確認は、予約変更専用窓口で承ります。ただし、歯科口腔外科の場合は歯科口腔外科外来までご連絡ください。

予約変更専用窓口 0566-25-8103  
歯科口腔外科外来 0566-25-8020

## 新年のごあいさつ

明けましておめでとうござい  
ます。

皆さまにとって2025年はど  
のような1年でしたか。

2025年4月13日から6カ月  
間にわたり、大阪で日本国際博覧  
会（大阪・関西万博）が開催されま  
した。日本と158の国と地域、  
7つの国際機関が参加し、外国の  
人気パビリオンを中心に連日多  
くのお客さんが訪れてにぎわっ  
ていました。皆さまの中にも、実  
際に万博へ足を運ばれた方が多  
くいらっしゃるのではないで  
しょうか。ご家族やご友人と一緒  
にかけがえのない時間を過ごし  
て、たくさんのおい出をつくれ  
たことと思います。

思い返せば、私たちは2020  
年初頭からパンデミックを引き  
おこした新型コロナウイルス感  
染症の流行により、国内の移動さ  
えはばかられる時代を経験し  
ました。2020年7月に開催さ



刈谷豊田総合病院  
病院長

吉田 憲生

れる予定であった東京オリ  
ンピックは1年延期という前例の  
ない措置がとられ、それにもか  
かわらず、翌年開催されたときには無  
観客試合をテレビで観戦するしか  
ありませんでした。パンデミック  
から5年が経過し、ようやく以前  
のように自由に移動できる日常  
を迎えられたことに、喜びを感じ  
るとともに感謝の思いに堪えま  
せん。

また、2025年は阪神・淡路  
大震災から30年の節目の年でもあ  
りました。その後も私たちは20  
11年の東日本大震災、一昨年元  
日の能登半島地震など、日本各地  
で地震による災害を経験してお  
り、そのたびに多くの方が被災さ  
れました。この地域においても、  
今後の南海トラフ地震発生の懸  
念が指摘されています。

新興感染症や自然災害などは  
予測や予期が難しく、今後もしつ  
発生するか分かりません。私たち

は、万一の事態に備えて継続的に  
準備していくことが重要です。過  
去の経験を生かした感染対策、防  
災対策を日ごろから意識してい  
きたいものです。

当院は地域の災害拠点病院と  
して住民の皆さまの生命を守るこ  
とができるように、施設や設備の  
整備を継続的に進めています。ま  
た、防災訓練などを通して災害に  
応じた医療体制へと速やかに移  
行できるように努めています。

今後も平穏な日常が続いてい  
くように「最善を期待しながら」、  
一方でもしもの災害の時のため  
に「最悪に備える」ことを心がけ  
て役割を果たしてまいります。

2026年が皆さまにとって  
素晴らしい1年となりますよう  
心よりお祈り申し上げます。

### 広報誌タイトル

## 医心伝心 [いしんでんしん]

本来「心を以って心に伝う」の意、以心伝心。私たちの業務も患者さんの言葉のみ  
に頼らず、表情、しぐさ、その向こうにある心の訴えに十分に目を向ける「心配り」  
を大切にすることが「医療安全」はもとより、快適な診療をお届けする基本だと  
考えます。そんな意を込め「以」を「医」としてタイトルにいたしました。

### 病院長

み～つけた!

広報誌内に登場しています。  
どこにいるでしょうか?  
(答えは裏表紙に記載)





## NEWS

### 医療安全推進週間の催しを行いました

11月23日(日)～29日(土)

安全環境管理室 深谷 あゆ美

厚生労働省では「患者の安全を守るための共同行動」の一環として、毎年11月25日(いい医療)に向かってGO)を含む1週間を医療安全推進週間としています。

医療安全チームでは活動報告、職員考案の医療安全に関する川柳の投票、患者誤認防止に関する職員が制作した動画の上映の他に、今年は新たに患者さんに参加いただける多職種によるミニレクチャー(正しい点眼薬の使い方や転倒予防など8つのお話)を行いました。感染管理チームでは院内を巡回し、ブラックライトを用いた手洗いチェックなどを実施しました。

お忙しい中、催しにご参加いただき、ありがとうございました。今後とも医療安全・感染管理の活動にご理解とご協力をお願いいたします。



ミニレクチャーの様子



ブラックライトを用いた手洗いチェック

ご来院の皆さまに投票いただきました上位4作品

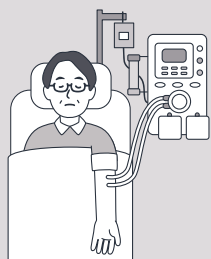
- ・ミスをした その後の対応 大事です
- ・これでいい? 小さな違和感大切に
- ・なんか変 思った時は 即確認
- ・名を呼ぶと、だいたいみんな、「はい」と言う

## Column

### 透析ってどんな治療?

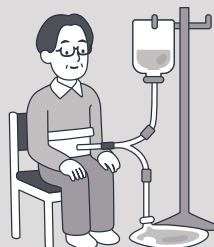
臨床工学技士 松風 瞳

腎臓は、体内の老廃物や余分な水分を排出し、血液をきれいに保つ重要な臓器です。この働きが著しく低下すると、体内に老廃物や余分な水分がたまり、健康に影響を及ぼします。こうした場合に必要となるのが、腎臓の機能を人工的に補う「透析治療」です。透析治療には主に以下の2種類があり、病状や生活スタイルに応じた方法が選ばれます。透析治療は長期間にわたって続ける必要があり、体調管理や食事制限、定期的な通院が欠かせません。正しい知識を持ち、医療スタッフと連携しながら、自分に合った透析生活を送ることが大切です。



#### 血液透析

- ・血液を専用の機械でろ過する
- ・基本的に週3回、病院やクリニックで実施



#### 腹膜透析

- ・おなかの中にある腹膜を利用する
- ・毎日自宅や職場で実施



### 編集委員からこんにちは

今年の冬はこちらの地域でも雪が舞うでしょうか。ちらりと舞う雪を見ると、心が少し弾みます。雪は美しいだけでなく、ほこりや花粉を吸着し、空気をきれいにする役割もあるそうです。寒さはまだまだ続きますが、厚着や温かい飲み物で体を大切にしつつ、冬ならではの景色や空気の清らかさを楽しめるといいですね。

広報委員 古川 花菜

# 安心を守るための 取り組み

～予測できない災害に備えて～



左から)薬剤師 本間 崇正、臨床検査技師 磯部 勇太、  
救急・集中治療部医師 安藤 雅樹、臨床工学技士 吉里 俊介、  
看護師 中村 千恵

## 災害に強い病院を目指して

刈谷豊田総合病院 救命救急センター長  
救急・集中治療部部長 安藤 雅樹

## 災害大国ニッポン

日本は「災害大国」と呼ばれるほど、世界中でも自然災害の多い国です。大規模地震に加え、近年は「地球灼熱化」による気温上昇や台風、豪雨による災害も増加しています。また、新型コロナウイルス感染症の大流行も私たちの健康や暮らしに大きな影響を及ぼし、これも一つの災害といえます。表1のようにさまざまな災害が起こる可能性がある中、健康や暮らしを守るためにはどのようにすればよいのでしょうか。

自然災害	人為災害	人道的緊急事態
地震、台風、竜巻、津波、洪水、感染症など	火災、爆発、建造物崩壊、交通事故（飛行機、鉄道、船舶、自動車）、原子力、サイバー攻撃など	戦争、テロ、紛争など

表1.災害の種類

## 自助・共助・公助

災害時には、自分自身を自分で守る「自助」、地域や「コミュニティ」の中で互いに助け合う「共助」、国や県、市町村などの公的機関



図1.3つの「助」

が支援する「公助」の三者の連携がとても重要です。どの「助」が欠けても、安心・安全な暮らしや健康を維持することはできません。当院は、災害時に地域の皆さまを「共助」、「公助」するために、その役割を担うための「自助」に取り組んでいます。

## 災害拠点病院として

当院は災害拠点病院に指定されています。災害拠点病院とは、何らかの災害が起こったときに地域の医療を守る要、砦となる病院です。この役割を担うため、電気や水などのライフラインが途絶えても、最低限の病院機能を維持できるように準備しています。また、他の地域で災害が発生したときに、被災地に出向き医療支援を行うDMAT（災害医療支援チーム）を保有しています。当院のDMATは、2024年元日に起きた能登半島地震でも、被災地で医療支援を行いました。

## あらゆる災害に備えて

当院では、院内での総合防災訓練に加え、刈谷市や刈谷医師会と共同し、刈谷市内に5カ所開設される災害時医療救護所の立ち上げ訓練を行うなど、大規模地震災害を中心

に災害対策を行ってきました。しかし、冒頭に述べたように災害は地震だけではなく、新型コロナウイルス感染症のような新たな(新興)感染症や、院内の精密機器を使用不能にさせるサイバー攻撃への対策も行わなければならないかもしれません。また、一度に数多くの死傷者が生じる多数傷病者事故(MCI: Mass Casualty Incident)がこの地域で起きるかもしれません。

MCIは多くの人が集まる場所や大きなイベントで起こりやすいといわれています。2026年9〜10月に、スポーツの大イベントであるアジア競技大会、アジアパラ競技大会が愛知県内で開催され、刈谷市にある総合運動公園もその会場の一つとなります。当院では、今年度その対策としてMCIを想定した総合防災訓練を行いました。地域の皆さまにとって「頼りになる病院」であり続けられるよう、あらゆる災害に備え、訓練などを通してBCP<sup>\*</sup>の整備を推し進めています。

<sup>\*</sup>BCP(事業継続計画)とは、災害や非常事態が発生したときに事業を継続するための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。

## 当院の自然災害対策

臨床検査技師

磯部 勇太

地震や津波、台風などの自然災害時には、災害の規模や病院の被害状況に応じて、一般

診療を一部または全て休止する場合があります。その上で、けがをした方や体調を崩された被災者を受け入れるための「災害医療体制」へ速やかに切り替えます。

災害医療体制で

は、院内に「災害対策

本部」を設置し、被害の状況を把握した上で、職員や医療物資などの限られた資源を適切に使えるよう調整します。また、救急外来や総合受付、薬局がある診療棟2階などに「災害エリア」を設け、傷病者の受け入れと「トリアージ」を行います。トリアージとは、災害などで多くの方が同時に受診されるような場合、けがや病気の緊急度・重症度に応じた4つの区分(赤・黄・緑・黒)で治療の優先順位を素早く判断する方法です。これにより、限られた医療体制の中でも、できるだけ多くの命を救うことができます。

さらに、停電や断水のようにライフラインが途絶えた場合に備え、非常用電源や給水設備を整え、病院としての機能をできる限り維持できるようにしています。また、飲料水や食料、医薬品、災害用トイレなども備蓄し、物資の供給が途絶えても、最低限の医療を継続できるようにしています。

自然災害はいつ起こるか分かりません。



トリアージエリアの様子

そのため、当院では日ごろから訓練や備えを重ね、非常時にも地域の医療を支えられるよう体制の強化に取り組んでいます。

## 総合防災訓練を終えて

臨床工学技士

吉里 俊介

当院では、例年南海トラフ地震を想定した総合防災訓練を行ってきました。しかし、あらゆる災害に備えるため、今年度は初めての、MCIを想定した総合防災訓練を行いました。MCIは地震災害とは違い、発生した直後から短時間で傷病者が近隣病院に押し寄せる特徴があり、本邦で過去に発生したMCIでもこの特徴がみられました。

今回は、2026年に開催されるアジア競技大会、アジアパラ競技大会会場の一つである刈谷市総合運動公園で発生したMCIを想定し、傷病者50名を受け入れる訓練を行いました。傷病者が短時間に集中して来院するMCIの特徴を再認識し、救急外来や中央手術室、集中治療室などの部門を超えた協力体制が重要だと感じました。



災害対策本部



また、初のMCCを想定した訓練で、これまで見えなかった課題が浮き彫りになりました。

今回、延べ260名の職員が訓練に参加し、自身の役割を真剣に果たしたことで、MCCに対する意識が向上したと感じています。今回明確になった課題を改善し、あらゆる災害に備え、地域住民の皆さまの命を守る病院であり続けるため、全職員一丸となって災害対応能力の強化に努めてまいります。



重症エリア（赤エリア）の様子

## 災害時の「いつもの」薬

薬剤師

本間 崇正

災害が起きたときには、どんな薬が必要でしょうか？多くの方は怪我をしたときの痛み止めや化膿止めなどをイメージするかと思います。ですが、過去の東日本大震災のような

大規模災害時には、普段かかりつけの先生からもらっている高血圧や糖尿病の薬などの、いわゆる「いつもの」薬が不足することが大きな問題の一つでした。

被災時には普段の薬を飲まなくてよいかというと、そんなことはありません。被災後も、避難所でも「いつもの」薬は必要です。

かかりつけの先生も被災者になると、その病院で薬をもらうことは難しくなります。救護所でも薬は処方してもらえない一方で、災害時などの緊急のときには、医師の診療なしに薬局で薬をもらう事例も認められています。

ただし、どこで「いつもの」薬をもらうにしても、薬の正確な情報は必須のため「自助」として避難時にも薬の情報を把握できるようにしておくことが大切です。具体的には、お薬手帳を常備する、スマートフォンに薬の内容を保存しておくなどが望ましいですが、自分が被災により話せなくなる可能性もありますので、家族など近い人にも薬の情報を共有しておくことも自助の一つと考えられます。

また、薬が長期に変わらない方は、日ごろから少し余裕をもって薬を準備しておくことも備えの一つかもしれません。おそらく、必須の薬については、大規模災害があっても数日あれば届けられる状況になると思います。ただし、日々の診察の中で急に薬が変わる可能性に注意しておきましょう。

## 能登半島地震での災害支援活動を通して

看護師

中村 千恵

私は、災害超急性期（発災直後）の2024年1月2日～6日と、亜急性期（発災から1か月）の2024年2月4日～8日の2回にわたり、能登半島地震の災害支援活動を行いました。真冬の北陸地方へ行く道中の雪が心配でしたが、事前に情報を取り出動に備えました。超急性期では、道路の損傷がひどく、普段3時間程度で行ける距離が4時間以上かかりました。夜間の移動は危険と判断され、指示を受け1月3日に活動を開始しました。

活動では、高齢者施設や70床規模の病院などの施設へ出向き、被害状況や支援の必要性を確認しました。また、被害が大きかった輪島病院では、当院のドクターカーで入院患者さんを金沢市まで搬送しました。活動の実働期間は3日間ありましたが、道路の状況が悪く所々渋滞もあり、移動に時間を要したため、活動時間が削減されてしまい残念でした。



能登半島地震で被害を受けた道路の様子

## 健診センター

年に1回、人間ドックや  
健康診断を受けましょう

完全予約制



女性専用  
エリアを  
設置



TEL 0566-25-8182

受付時間 月～金曜日  
8時～16時

<https://www.toyota-kai.or.jp/facility/center/>



### 特定健診とは

特定健診とは、生活習慣病の予防のために行う、メタボリック  
シンドロームに着目した健診で、40歳～74歳の方が対象です。  
生活習慣病のリスクがある方には、生活習慣を改善するため  
に、保健師による特定保健指導が含まれます。  
生活習慣病は、今症状がなくても、将来的にがんや心疾患、脳血  
管疾患などの重大な病気を発症する可能性があります。ご自身  
の健康のために、年に1度の特定健診を受けてみましょう。

## 相談窓口

心配なこと、お困りのことなどが  
ありましたら以下の窓口まで

治療や療養上の総合的な相談  
医療安全・医療事故に関すること

➡ 患者相談窓口

療養中の不安や  
医療・福祉・介護の制度について

➡ 総合相談室(医療福祉)

がんに関する相談  
(お電話でも相談可)

➡ がん相談支援センター  
(がん相談窓口:0566-25-8110)

受付時間 月～金曜日  
8時30分～16時45分

場 所 正面玄関入って右

## イベント・教室

開催日は変更となる場合があります。  
ホームページで最新情報をご確認ください。



骨粗しょう症教室 ※予約不要、どなたでもご参加いただけます

開 催 日 2月16日(月)

時間・場所 14時～15時30分 診療棟5階 第3会議室

ひまわりサロン(がんと診断された方とご家族の会) ※予約不要

開 催 日 1月19日(月)、2月2日(月)、3月16日(月)

時間・場所 14時～15時 診療棟4階 がん情報ラウンジ

水曜会(乳がんと診断された方の会) ※予約不要

開 催 日 1月21日(水)、3月18日(水)

時間・場所 14時～15時30分 診療棟4階 がん情報ラウンジ

ピアサポーター(がん治療体験者)による相談会 ※予約不要

社会保険労務士によるがん患者さんの就労支援相談会 ※予約優先

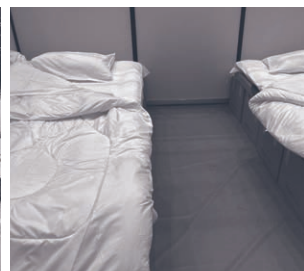
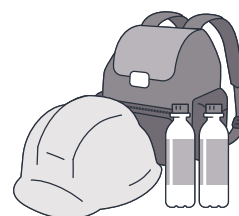
開催日時・場所 毎月第1木曜日 10時～12時 正面玄関

また、数日の活動でしたが、ライフラインが途絶え、トイレが使えないことが予想以上のストレスとなり、この生活を長期間余儀なくされる被災者のストレスは計り知れないものだと思うと同時に、ライフラインの大切さを改めて感じました。

亜急性期は、金沢市のいしかわ総合スポーツセンターに設置された避難所で活動しました。震源地から少し離れていることもあり、ライフラインには問題ありませんでした。私は避難所の中でも介護が必要なエリアで活動しました。日ごろの医療資源が整った環境と違い、入所者の状態悪化時すぐに医療資源が使えない不便さと、病院と避難所での支援内容

の違いになかなか慣れず、苦勞しました。また、亜急性期では多職種のスタッフや地域との連携の重要さと、被災地も支援に頼り続けられないため、自立に向けた支援が必要ことを学びました。

DMAは災害急性期に活動できる医療チームとされていますが、災害の種類や被災状況によってニーズが異なるため、専門性のあるチームとして柔軟な対応ができるよう、日ごろから知識・技術の維持・向上に努めていきたいと思っています。また皆さまにも、いつ起こってもおかしくない南海トラフ地震に向け、いま一度、防災・減災に備えていただければ幸いです。



避難所の様子(いしかわ総合スポーツセンター)



## 旬を食す Season's Cooking

## 黒豆のほんのり甘いかき揚げ

正月に向けて、家で黒豆を作られた方も多いと思います。黒豆は、抗酸化作用があるといわれるアントシアニンという青紫の色素の他に、たんぱく質や葉酸、鉄も含んでいます。大豆イソフラボンも含まれるため、特に女性には食べていただきたいものです。そんな黒豆を使った、ひと味違う料理をご紹介します。

## 作り方

- ① タマネギ、ニンジンは千切りにし、三つ葉は2cmくらいに切る。
- ② ①に天ぷら粉を軽くまぶす(表面に粉が軽くつくくらい)。
- ③ 卵を溶き、冷水を加えて混ぜたら、残りの天ぷら粉を加えてさらに混ぜる。
- ④ ③に②と黒豆を入れて、さっくり混ぜる。
- ⑤ 180℃に熱した油で揚げて、油を切り、器に盛る。



1人分  
185kcal

## 材料(4人分)

黒豆(煮たもの)	100g
タマネギ(中)	1個
ニンジン	1/3本
三つ葉	1/2束
冷水	50~70ml
卵	1/2個
天ぷら粉	50g

【豊田会理念】 保健・医療・福祉分野で社会に貢献します

【豊田会方針】 温かい思いをこめた、質の高い保健・医療・福祉サービスを提供します

## 【病院方針】

1. 患者権利の尊重・患者第一主義
2. 地域中核病院としての機能充実
3. ICT技術の活用
4. 働きがいのある職場づくり・人材育成
5. 研修医・専攻医の育成
6. 持続可能な医療提供
7. コンプライアンス(社会的責任を果たす)

## 【患者の権利と責務】

私たちは患者の皆さまの権利を尊重し、安全で質の高い医療の提供に努めます。  
そのためには、患者の皆さまの主体的な参加が不可欠です。  
以下に掲げる事項は、患者さんと医療従事者が守るべき事項です。

## 【患者の権利】

1. 安心して最善の医療を公平に受ける権利を尊重します。
2. 医療機関を自由に選択し、他の医師の意見を求める権利を尊重します。
3. 治療に関する情報を知り、説明を受ける権利を尊重します。
4. 治療に関する方法を自己の意思で決定する権利を尊重します。
5. 個人の情報が保護される権利を尊重します。

## 【患者の責務】

1. 自ら選んだ治療方針に沿って医療に参加する責任があります。ご自身の健康に関する情報を医療者にできるだけ正確に伝え、また、同意された医療上の指示に従ってください。
2. 病院の規則を守り、犯罪行為、迷惑行為を行わないなどの社会的ルールを守る責任があります。
3. 検査や治療のために、必要な医療費を負担する責任があります。



## ご意見箱

当院に設置しているご意見箱にお寄せいただいた皆さまからのご意見と回答をホームページに掲載しています。貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。



病院長み～つけた! 解答

①②3ページ 臨床工学科コラム 血液透析と腹膜透析のイラスト(2カ所) ③7ページ 健診センター案内



日本医療機能評価機構の  
認定を受けています



卒後臨床研修評価機構の  
認定を受けています

ISO15189  
2010年11月に認定

刈谷豊田総合病院

検索

<https://www.toyota-kai.or.jp/>

バックナンバーは当院ホームページでご覧いただけます

